

読者リポートを募集します

土曜日付「スポーツパークみやぎ」では、読者からの原稿を募集します。さまざまなお話やスポーツライフを楽しんでいる姿や感想、スポーツの魅力などを盛り込み、写真と写真説明を付けて400〜700字程度でリポートしてください。掲載分に薄謝を呈します。

掲載希望者は、封書またはフアクス、電子メールで住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記の上、〒980-8660 仙台市青葉区五橋1-2-28、河北新報社編集局「スポーツパークみやぎ 読者リポート」係にお送りください。
 ▷ ファクス 022(211)1277・1159
 ▷ 電子メール sportsdesk@po.kahoku.co.jp
 ▷ 連絡先はフリーダイヤル (0120) 893389



1部では惜しくも決勝進出はならなかったものの、大活躍を見せた大和の小田浩一選手

華麗なプレー 終日歓声

仙台市ミニテニス協会の春季大会が4月6日、宮城野区の宮城野体育館で開催された。回を重ねるごとに参加チームが増え、今大会には47チームがエントリー。女子、混合、男子の3ダブルスによる団体戦を3部制で行った。真逆12色のカラフルなボールがコートを飛び交い、トリアスヒップのかかったフォアやバックハンドの華麗なプレーに、会場は終日、歓声に包まれた。3部では、4戦全勝で予選を勝ち上がった寛沢Bが、決勝でも好調を維持、3対0と蒲町Aを圧倒し、初優勝を飾

仙台市ミニテニス協会春季大会 47チーム、3部制で熱戦

った。混合ダブルスに出た寛沢Bの岡部順子選手は「結成5年目の優勝で、日ごろの練習がやっとなった。これからもうチームの和を第一に、2部昇格を目指して成長したい」と意気込みを寄せ、流れる額汗をぬぐった。中間の声援を受け、2部優勝した七郷B。堀江亨選手は予選第1試合の遠慮戦、女子ダブルスでフルセットの末に勝ち、チームが遂に乗れた。決勝で強豪の西山Bに3対0でストレート勝ちしたことは自信につながる」と喜びを語った。

1部では、予選4試合中3試合が2対1と、接戦をものにして決勝に進んだ南小泉Aが目玉だった。決勝では流れを保つことができず、荒浜Aに1対2で惜敗したものの、小松真二選手は「次の大会に向けて課題はつきりした。イージーミスのないよう、一つ一つプレーの精度を上げたい」と意欲を示した。激戦を制し、春季大会1部で5連覇に輝いた荒浜A。表彰式では優勝カップを高らかに掲げ、誇らげだった。(仙台市・渡辺 勝利)

土曜日掲載

スポーツパーク

みやぎ

全国レベル級に 競い合って上達

世代超え好プレー一連発

仙台市ミニテニス協会の第12回大会が5月3日、若林区の若林体育館で開かれた。参加した34チームの選手たちはチームメイトらの声援を受け、年代を超えた戦いに心地よい汗を流した。

仙台市ミニテニス大会

女子、混合、男子の3ダブルスによる団体戦を3部制で行った。ボールに強烈なバックspinやサイドspinをかけるなど、ミニテニス特有の技を駆使した攻防が各部とも予選から見られ、フルセットにもつれ込む試合も多かった。

決勝は、各部二つのブロックの予選上位同士が対戦。進出チームはいずれも、予選を全勝で通過してきた。

大接戦となったのが、JOY・A―荒浜Aの1部。甘い球は一発で決められる。いかにコースを狙えるかがポイントとなった。卓越したスピードに加え、広い視野から繰り出される攻防に、観衆から幾度となく、ため息と歓声が上がった。

試合は2―1の末、荒浜Aが勝利。チームは惜敗したものの、男子ダブルスで勝ったJOY・Aの熊谷陵司さんは「苦しい時間帯もあったが、ペアを組んだ2人のムードが良かったので勝った」と汗が噴き出る顔を輝かせた。

1部予選Aブロックで2位と活躍した大和の鹿又智恵子さん

技を駆使34チームが汗

2部は、予選から好調だった桜Aが決勝でも流れを維持し、3―0のストレートでアルファを制した。夫婦の混合ダブルスで大会に臨んだ桜Aの小野寺修さんは「すごくいい日になった。ドライブスマッシュが正確に打てたことがうれしい。妻とのフォーメーションも良かった。妻の智晴さんは「ベースライン深く狙って返球できた。決めるのはまず」と照れながら笑顔を浮かべた。

3部決勝は、西山Cが2―1で七郷Cとの接戦を制した。西山Cの星正七さんは出場選手中最高齢の76歳。「若い選手との対戦は燃えますね。仲間の激励が最後まで戦えた原動力」と、チーム一丸となつての優勝に充実感をにじませた。(仙台市・渡辺 勝利)



東北ミニテニス仙台大会

第1回東北ミニテニス交流仙台大会が6月1日、仙台市太白区の市体育館で開かれた。宮城、秋田、山形の3県から54チームが参加。1部と2部に分かれた団体戦に好プレーを繰り広げた。

◇

前夜には役員、選手の皆さんによるレセプションが行われた。乾杯の後、スピーチや久しぶりの再会に話が弾み、自慢の歌まで飛び出すなど、楽しい交流の場となった。大会当日は雨も上がり、初夏のすがすがしい日和となった。閉会式では古城(宮城)の高橋勉さん、勝士(岩手)夫妻が練習を積んできた力と技と精神力を余すところなく発揮し、勝つても負けても大きな感動を得られるよう、自分とパートナーを信じ、精いっぱい競技します」と宣誓した。

県内の普及の大会に比べるとレベルが高く、好

好プレー続出 飛び交う歓声

試合通し交流深める

プレーが続出。それでも能代愛好会Aに準々決勝で惜敗した荒浜Aの菅野儀仁選手は「強い相手して、県を超えた歓声が飛び交い、交流大会にふさわしい和やかな雰囲気の中で試合が進んだ。」と話した。

◆

全試合終了後には、トップ選手による男子ダブルスのエキシビジョンゲームも行われた。卓越したパワーとスピード。一進一退の攻防にため息が漏れるとともに、大きな拍手が送られた。

(仙台市・渡辺 勝利)

閉会式では、来年の開催地・秋田市での再開を誓い、名残を惜しんでの敗戦となった。スポーツの魅力は技の競い合いだけでなく、仲間づくりができることにもある。その意味で、目的である交流の輪が大きくなければならない。

◆

閉会式では、来年の開催地・秋田市での再開を誓い、名残を惜しんでの敗戦となった。スポーツの魅力は技の競い合いだけでなく、仲間づくりができることにもある。その意味で、目的である交流の輪が大きくなければならない。



優勝した能代愛好会A

スポーツパーク
みやぎ
土曜日掲載



仙台市ミニテニス夏季大会

JOY・A 1部初優勝

本年度の仙台市ミニテニスの渡辺正樹選手が「ミニテニス協会夏季大会が7月27日、ス精神にのっとってフェアプレイに徹し、相手に攻められた。女子、混合、男子の3グループによる団体戦で、1部を信じ、最後まで戦いまくった。2部13、3部17の4チーム、計323人のミニテニス愛好者が参加。各部の頂点を目指し、熱戦が繰り広げられた。

開会式では、七郷Cチームに圧勝し、1部で初優勝した。JOY・Aが3-0で荒浜Bを破ることに成功した。強攻だけでは勝てな



力強く宣誓する七郷Cの渡辺選手

た。混合ダブルスで活躍したJOY・Aの大学生、島影愛選手は「荒浜の連覇を阻止できたことは自信になる。今度は追われる立場。勝てるチームになっていくよう練習に精進したい」と目を輝かせていた。

2部決勝は、共に予選全勝で勝ち上がった遠見塚一団見ヶ丘A。1勝1敗を迎えた男子ダブルスで、遠見塚の後藤敏男選手は、持ち味の強打で攻撃するも、相手の安定した守備を破ることができず惜敗した。「強攻だけでは勝てな

い。相手の嫌がるプレーも必要ですね」と冷静に試合を振り返っていた。

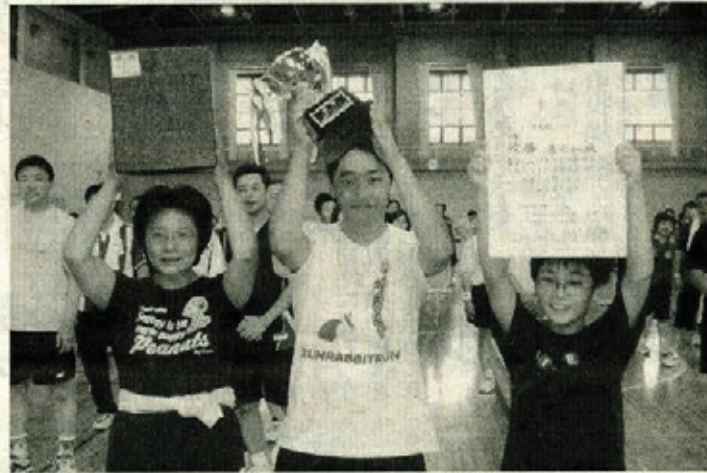
3部は予選からの好調を維持した蒲町が3-0のストレートで西山Cを制し、初優勝した。渡辺恵美子選手は「すごい日になった。試合前は緊張して苦しかったけれど、みんなで励まし合ってた方々と次に会つのが楽しかった。代表の田中絃子さんは「ふれあいを通じて気持ちのいい汗を流すことができた。対戦し

顔の汗をぬぐった。山形市から体育指導委員中心のチーム(やまがたフレンドスA、B)が3部に初参加。代表の田中絃子さんは「ふれあいを通じて気持ちのいい汗を流すことができた。対戦し

は緊張して苦しかったけれど、みんなで励まし合ってた方々と次に会つのが楽しかった。代表の田中絃子さんは「ふれあいを通じて気持ちのいい汗を流すことができた。対戦し

顔の汗をぬぐった。山形市から体育指導委員中心のチーム(やまがたフレンドスA、B)が3部に初参加。代表の田中絃子さんは「ふれあいを通じて気持ちのいい汗を流すことができた。対戦し

スポーツパーク
みやぎ
土曜日掲載



スポ・レク・フェスタミニテニス大会

多彩な攻防盛んな声援

仙台

41チームが参加したス 00歳を超えてもミニテニス 3ダブルスで編成する。ポ・レク・フェスタ20ニスを愛し、反省会では試合は7点先取の3ゲーム・レク・フェスタ20ニスを愛し、反省会では試合は7点先取の3ゲーム08ミニテニス大会が9ケイツと生ビールを楽しむ。各部とも二つ月14日、仙台市若林体育館で開かれた。『打倒・常勝荒浜』のブロックに分かれ、1館で開かれた。を目標に、生涯ミニテニスを愛することを誓い、別リーグで予選を行い、開会式では七郷チーム『僕たち、私たちは』敬内容を会場は大爆笑で、古賀昭則選手が宣誓。す。ユーモアあふれる上位1位同士が優勝を争った。

老の目』前日を迎え、1 明るい雰囲気開幕開けと 試合は予選からフルゲームにもつれる試合が続出した。卓越したスピー丘Aの中村光一選手は賞状を高らかに掲げ、誇喜びを表す蒲町のメンバ 3部制の団体戦。各チー ムは女子、混合、男子の の高い試合に、応援団が 鋭く変化するカットボー (仙台市・渡辺 勝利)

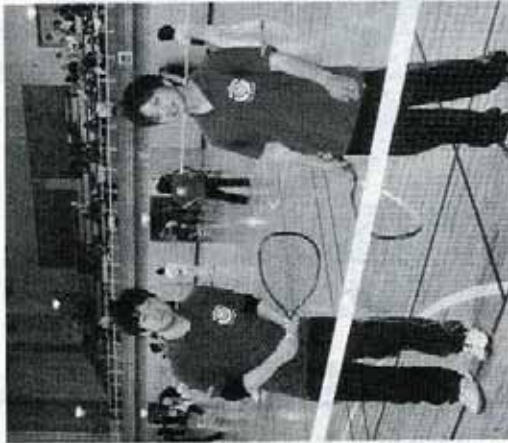
ら盛んな歓声が飛び交った。

1部決勝は2-1でJ OY・Aが荒浜Aに競り勝ち、スポ・レク・フェスタ初優勝を果たした。男子ダブルスを戦ったJ OY・Aの熊谷陵司選手は「荒浜のエアースに打ち勝つての優勝。チョーウれしい」と顔を輝かせた。2部は最近力をつけてきた国見ヶ丘Aが、決勝でも3-0と桜Aを圧倒した。学生時代、硬式テニスの経験がある国見ヶ丘Aの中村光一選手は賞状を高らかに掲げ、誇らしげだった。

3部決勝は、蒲町が2-1の接戦で桜Bを制した。蒲町の渡辺恵美子選手は「いくつか課題もありましたが、優勝できてうれしいです。楽しんでました」とにっこりとした。

表彰式で蒲町のメンバは、優勝カップや賞状を高らかに掲げ、誇らしげだった。

表彰式で 3部制の団体戦。各チー ムは女子、混合、男子の の高い試合に、応援団が 鋭く変化するカットボー (仙台市・渡辺 勝利)



1部で優勝した荒浜Aの松木選手(左)と中沢選手のペア

全国大会でも活躍の強豪 荒浜A 1部制す

仙台市ミニテニス協会秋季大会

仙台市ミニテニス協会秋季大会が同市若林区の若林体育館で昨年11月16日に開かれた。市内の43チームが出場。試合は3部制で、各部ともこのブロックに分かれての予選に続いて決勝が行われ、1部は荒浜Aが優勝した。2部は桜A、3部は蒲町がそれぞれ制した。1部優勝の荒浜は平成10年の発足で、ジュニアの育成に力を入れている

チーム。現在、10~50代の会員37人。うち8割が夫婦や親子、きょうだいなどのファミリーで、週2回、荒浜小学校の体育館で午後7~9時に練習している。準備体操の後、監督、コーチの指導で基本の振りやフォアメーション。続く試合形式の練習では「どういふボールが来るか、どこに打てばポイントにつながるか、どう動けばいいか」などを考えながら、年代を超えて汗を流している。その成果が発揮されたのが、熊本市で昨年11月1~3日に開かれた第12回全国ミニテニス交流能力大会だ。荒浜からはペア10人が個人戦に出場。男子ラリーの部で松本勇介・中沢友佑組が優勝したほか、女子40歳代の部で中沢理恵・松浦洋美組が準優勝。混合40歳代の部で

は末永薫・末永直子のペアが3位と、それぞれ金・銀・銅に輝いた。このうち松本・中沢組は、小学5年の時から親たちの練習についてきていた。中学1年で正会員となり、監督の指導はもとより、強豪チームへの積極参加で技術を高めた。2人は「優勝は本当はうれしかった。これからもミニテニスを楽しみながら全国大会連覇を目指して頑張ります」と語っている。強豪チームであっても気みはあるようだ。代表の松本秀高さんは「毎年開いている講習会に受講者は集まるが、入会する人がいない。秘策を考えないと」と話す。これからも、技術の向上と仲間づくりのバランスを考えながら、市協会を代表するチームへと発展することを願っている。(仙台市・渡辺 勝利)

スポーツパーク みぎぎ

土曜日掲載



ネット際の攻防。プロクックが見事に返した。ここに当たっても痛さを感じないボールの軟らかさが初心者受けするものと感じている。人生は健康であってこそ。これから体力の維持増進、そして仲間つくりのソフトバレーボールを楽しみ、身近な生涯スポーツとして大いに活用していただければ幸いだ。(富谷町・酒井真代)

仙台市ミニテニス協会の冬季大会が2月15日、市民総合体育大会の一環として、青葉区の市青葉体育館で開かれた。本年度、新たに設けられた冬季大会には、1-3部の団体戦に45チームが参加。中学生から70代後半まで男女344人のプレイヤーがピカピカのゴールドカップ獲得を目指し、和やかな雰囲気の中にも白熱したラリーを応酬した。

開会式では、七郷Dの男子中学生3人が「共に汗を流した仲間を信じ、ボールに全力で食らいつき、頂点目指して頑張ります」と選手宣誓した。

各部とも初めに2ブロックに分かれ、4試合ずつの予選。その1位同士が決勝に進み、優勝を争った。

雪も溶かす 白熱ラリー

1部決勝は、JOY・Aと荒浜Aの対戦となった。1勝1敗で迎えた男子ダブルス。JOY・Aの熊谷陵司・佐々木悠亮組は8-5と優位に試合を進めていたが、ここで「優勝」の2文字が頭に浮かんだのかストロークが乱れ、逆転を許し

1部決勝は、JOY・Aの手は「パートナーとのコンビネーションが良かったのでいけると思った。でも、決勝で心地よい緊張感が味わえて、とっても楽しかったです」と、さわやかな笑顔で語った。

3部で、予選から堅い守りと少ないチャンスを生か

仙台市ミニテニス冬季大会

荒浜A、1部制す

て8-10で惜敗した。熊谷選手は「ここが大事という場面でも集中できなかった」と悔しそうにボールを見つめていた。

2部決勝は、国見ヶ丘Aが遠見塚を3-0のストレートで下して優勝。女子ダブルスでも善戦するも届かなかった遠見塚の後藤享子選手は「コート前は緊張したが遠見塚を3-0のストレートで下して優勝。女子ダブルスでも善戦するも届かなかった遠見塚の後藤享子選手は、この試合、妻史枝さんと混合ダブルスを組んでチームの勝利に貢献した南達哉選手は、「ゲーム前は緊張したけれど、始まったら自分のプレーができた」と目を輝かせた。応援してい



1部決勝で惜敗したJOY・Aの熊谷陵司選手(左)と佐々木悠亮選手のペア

た、選手宣誓の中学生たちは「ドキドキハラハラ。自分たちの試合より疲れた。ナイスゲームでした」と喜んでいました。

仙台市ミニテニス協会が設立されて12年。老若男女が手軽に楽しめるスポーツだが、当初はこれほどまでに普及、発展するとは考えられなかった。これからは生涯スポーツとしてミニテニスを楽しくしてください。(仙台市・渡辺 勝利)

「友情の輪・元気の輪・させたりした。初めはラケットにボールがうまく当たらず、当たっても四方八方に飛んでいき、苦労していたが、次第に様になってきた。」

渡辺会長が、ボールに回転を掛け、弾んでから真後ろに鋭く戻るカットサーブと募集したところ、区や、大きく曲がるスライスサーブなどを披露すると、

ミニテニス 楽しさ発信

仙台市協会が初心者講座

日本ミニテニス協会の公認 参加者からは驚きの声が上がった。指導員6人がマンツーマンで講習に当たった。

参加したのは、全員が60代以上のミニテニス未経験者。ラケットの握り方に始まり、ボールに慣れるためのラケットを使って体の前でボールを空中にポンポンと弾ませたり、床にバウンド

「友情的輪・元気の輪・させたりした。初めはラケットにボールがうまく当たらず、当たっても四方八方に飛んでいき、苦労していたが、次第に様になってきた。」

渡辺会長が、ボールに回転を掛け、弾んでから真後ろに鋭く戻るカットサーブと募集したところ、区や、大きく曲がるスライスサーブなどを披露すると、



渡辺会長（左端）ら指導員から説明を受ける体験会の参加者（ネット右側）

「運動は普段あまりしませんが、ミニテニスは楽しく、遊び程度ならいい運動になり、メタボ対策や体力を高めるのに最高ですね。特に肩凝りにいいようです」と、腕を大きく回して効果を実感しているようだった。

参加した大友みさ江さんは「動きが激しいと思っていましたが、ボールが飛んで来る方向を読んで先に動くように、楽しく試合ができました」と、自信を得た様子だったのは鈴木妙子さん。

仲良く参加した相沢光彦さん、すみ子さん夫婦は「ストレス解消にいいですね。夫婦で同じコート内でプレーできるなんて夢のよう」と笑顔で話す。加藤初代さんは「寒いのにたくさん汗をかき、心の底から爽快（そうかい）です。少しやせたかしら」と額の汗をぬぐっていた。

子どもから高齢者まで、ビニール風船のようなカラフルなボールを追いかけ、体力に応じてできるミニテニスは、最高の生涯スポーツ。今後もこのような体験会を数多く開き、多くの皆さんに楽しんでほしい。

体験を希望する団体やサークルには、会場の確保だけしてもらえば、私たち公認指導員が無料で伺います。連絡先は渡辺会長022(2086)54006。

(仙台市・阿部 勝彦)

スポーツパーク

みやぎ

土曜日掲載

第12回全国ミニテニス交流『能代』大会 (2008.11. 1～3)

競技会場～能代市総合体育館・能代山本スポーツリゾートセンター『アリナス』・ニツ井町総合体育館の3会場
北は北海道釧路市から南は九州宮崎県より総勢約850人参加。日頃培った力と技と精神力を競いあった。

◇レセプション会場・キャッスルプラザ平安閣で記念撮影

渡邊会長夫妻、古山夫妻、鈴木さん、加藤さん、後藤さん、小野寺さん、鷺見さん、柴崎さん、阿部島さん、高橋夫妻



左から 阿部島信子さん、鈴木孝一部長、齊藤滋宣能代市長、柴田文男秋田市ミニテニス協会会長、渡邊勝利仙台市ミニテニス協会会長

